

議長(東久世) 御發議ナクハ可定ト認メ第三

會ニ移ル朗讀ハ省略ス

議長(東久世) 御發議ナクハ可定ト認ム

○

議長(東久世) 追加日清通商航海條約御批准ノ

件第一讀會ヲ開ク朗讀ハ省略ス

報告員(都筑) 三十四年ノ議定書ニ基キ日清通

商航海條約ニ追加セムトスルモノニシテ日

本ノ利益ヲ増進スル箇條アリ又中ニハ清國

政府力實行ノ域ニ達スヘキヤ疑アル條アリ

樞密院

又解釋ノ困難ナルモノアルモ最惠國條款ニ

依リ最惠國ノ待遇ニ均霑スルニヨリ解釋ヲ

為ス便宜アルヘキヲ以テ又日本ノ利益ヲ増

進スルモノニテ且ツ速ニ締結ノ必要アルモ

ノナルヲ以テ旁原案通可決アラントヲ望

ム

二十四番(田中) 本條約ハ米清條約英清條約ト

同様ノモノナルヤ如何差違アラハ當局者ヨ

リ大體ノ説明ヲ得タシ

委員(珍田) 唯今ノ御問ニ答フル前ニ大體ニ付

テ述ヘン書記官長ノ御報告ノ通り一昨三十
四年九月二日調印ノ北京ノ最終議定書第十
一條ノ效力ヲ實行スル目的ヲ以テ本條約ヲ
締結セムトスルモノナリ昨年三月政府ハ日
置小田切ノ二人ヲ全權委員ニ命シタリ然レ
ナカラ之ニ先テ關稅率換算ノ協議ヲ要シ之
ヲ先ニシタルヲ以テ昨年八月マテハ本條約
ノ談判ニ掛ルコトヲ得サリニ其後彼我ノ委
員ハ十數回會談シタルニ種々困難ノ點モア
リタル故結局一時談判ヲ北京ニ移シ内田公

樞密院

使ト張之洞ト協議ヲ遂ケ更ニ上海ニ移シ漸
ク十月八日調印スルニ至レリ此ノ如ク種々
ノ困難ニ遭ヒ種々ノ曲折ヲ經テ本案ノ形ト
ナレリ從テ其ノ實體ニ至テモ當初當方ノ主
張ニ照セハ充分満足ナラサルモノアリ又條
文中多少明瞭ヲ缺クニ至リタルコト書記官
長ノ報告ノ通ナリ然シ日本文ニ於テ明晰ナ
ラサル點モ英文ニ於テハ明晰ナルモノモア
リ又米清條約英清條約ニ照シ明白ナルモノ
アリ大體ニ於テ差支ナシト信ス要スルニ今

日ノ情勢ノ下ニ於テ出来得ル限リノ満足ナ
ルモノト信ス一方ニ於テハ批准期間ハ六箇
月ナリ批准交換ヲ終ルヤ否ヤ滿州問題ニ著
手スルナリ從テ成ルヘク速ニ交換ニテ實際
ノ利益ヲ占ムルコト國利民福上必要ナリト
信ス

委員(杉村) 英清條約米清條約ニ照シテ差違
ル點ヲ述フルニハ各條ニ互ヲサルヘカラサ
ル故暇カ掛ルカ各條ニ就テ申述フヘシ
第一條ノ釐金制度ハ英米トモ全廢ト確定シ

樞密院

アリ其ノ代ニ輸入ニハ七分五厘輸出及沿海
貿易ニハ二分五厘ヲ掛ケルコトナリ居レ
リ第二條ノ宜昌ト重慶ノ曳上ハ英清條約ト
略同様ナリ第三條ノ内河航行ノコトハ他ノ
條約ニナシ清國ハ海ニ行ク船ハ内河ニ行ク
コトヲ許サス之ヲ出来ル様ニ日本タケハセ
リ第四條ハ英清ト略同様ナリ第五條ハ米清
英清ト略同様ナリ第六條モ同様第七條ハ他
ニ類似ノモノアリ格別重要ナラス第十條ノ
北京開市ハ他ニハナシ奉天府ノ開市ハ米清

ニアリ然シ大東溝ハ米清ニハ安東トアリ其
他ノ開港ハ英清ニ澤山アルカ之ハ釐金問題
ニ關聯シ釐金廢止ト同時ニ行フコトナリ
居レリ日清條約ノ規定ハ手堅ク出来居ルナ
リ第十一條ハ英米ト同様ナリ第十二條ハ英
米ハ英文ヲ以テ本文トス
仍其他ノ條約ヨリ述フレハ米清條約ハ殆ど
加條約ノ體裁ニ非ス體裁ヲ異ニセリ從テ使
臣ノ派遣領事ノ待遇ヲモ掲ケタリ其中日清
條約ニ無キモノハ米清條約第五條ニ項ニ清

樞密院

人カ米國ニ於テスル納税ノ事ヲ掲ケ次ニ保
稅倉庫ノ事ヲ掲ケタリ次ノ條ニ鑛山規則ヲ
改正シ米人ノ投資ニ便ニスルコトヲ定メタ
リ次ニ戻税ニ關スルコトアリ之ハ英清條約
ニモアレト日本ニハ未タ必要ヲ認メス次ニ
專賣特許ノ事アリ日清條約ニハ無シ宣教師
ニ關係スルコト之ハ英清條約ニモアルト記
憶スレトモ日本ニハ必要ノナキ個條ナリ阿
片其他ノ物品ノ輸入ニ關スルコト之モ日本
ニハ必要ナキ故規定無シ

大體米清條約トノ差違ハ此ノ如シ仍英清條
約ニアルモノハ戻税證書ノコト香港ト廣東
間ニ運漕スル支那形船舶ノ貨物輸入税ハ汽
船ト一所ニ課税スルコト之ハ英國ハ香港ア
ルカ為ナリ、鑛山採掘ノコト、モルヒ子ノ輸入
ノコト、宣教師ノコト等ナリ裁判制度改正、治
外法權撤去ノコトハ三國共ニ規定アリ穀物
ヲ開港場間ニ運搬スル規定之ハ日清ニモ米
清ニモナシ
先ツ大體相違ノ點ハ以上ノ通ナリ

樞密院

二十四番(田中) 逐條ニ就キ詳細ナル説明ヲ得
テヨク了解セリ

四十一番(西) 委員ニ御尋子致ス本條約中清國
ニテ實施ノ難カルヘキモノ往々見ユルカ之
ハ逐々ニ實行スルモノトシテ第十條ノ滿州
開放ノコトハ現今清國ニテ實施スルコトム
ツカシキコトト思フ清國ニテ批准セサル掛
念ハナキヤ

委員(珍田) 滿州今日ノ狀態ニテハ之ヲ清國ニ
テ實行スルコト難キ様ニモ見ユルカ當局者

ノ考ニテハソシナニ障害サカルヘシ確カ七日ニ露國ヨリ日米ニ一ノ通知来レリ即チ滿州開港ニ就テハ露國カ北京ニ於ケル談判ノ如何ニ拘ハラス其ノ一部ノ開港ニ就テハ何等ノ異議ヲ云ハスト通知シ来リタリソレ位故何等異議ヲ陳ヘスト思フ

議長(東久世) 他ニ御發議ナクハ第二讀會ニ移ル

(河村書記官條約本文ヲ朗讀ス)

議長(東久世) 唯今朗讀ノ分御意見ナクハ可定ト認メ次ニ移ル

(柴田書記官附屬第一號以下ヲ朗讀ス)

議長(東久世) 朗讀ノ分可定ト認ム續テ第三讀會ヲ開ク朗讀ハ省略ス

四十一番(西) 第二號ト第三號トノ往文ト復文

トノ趣旨喰ヒ合ハヌ様ナルハ如何

報告員(都筑) 御質問ノ邊ハ即彼此ノ間解釋ノ

一定セサルモノニシテ將來ノ外交談判ニ讓ルヘキモノト認メタリ

議長(東久世) 他ニ御發議ナクハ可定ト認メ御

批准案ヲ朗讀セシム

(河村書記官朗讀)

御批准案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル大日本國皇帝御名此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕明治三十四年九月七日清國北京ニ於テ帝國外十箇國全權委員ト清國全權委員トノ間ニ記名調印シタル議定書第十一條ノ規定ニ基キ明治三十六年十月八日上海ニ於テ帝國全權委員ト清國全權委員トノ間ニ記名調印シタル追加

樞密院

日清通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閲覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十三年明治三十六年 月 日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣男爵小村壽太郎

議長(東久世) 可定ト認ム

○

議長(東久世) 日米兩國間小包郵便條約締結ノ

件第一讀會ヲ開ク朗讀ハ省略ス

報告員(都筑) 本條約ハ兩國間ノ小包郵便交換

ニ關シ詳細ナル手續ヲ定メタルモノニシテ

米國ハ是レ迄餘リ締結ヲ好マサリシ様ナリ

シカ今回之ヲ承諾シタルニヨリ締結セムト

スルモノナリ

議長(東久世) 第二讀會ヲ開ク格別ノコトモナ

樞密院

キ故朗讀ヲ省略ス

議長(東久世) 御發議ナクハ第三讀會ニ移ル朗

議ハ省略ス

議長(東久世) 本案御同意ノ諸君ハ起立

(多數)

議長(東久世) 多數ト認ム總テ議了セルヲ以テ

上奏ニ及ハン

(午前十一時五十五分散會)

副議長伯爵東久世